

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援きりんハウス			
○保護者評価実施期間	令和6年 4月 1日		～	令和7年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数)	30
○従業者評価実施期間	令和6年 4月 1日		～	令和7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 4月 1日		～	令和7年 3月 31日

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・活動プログラムが固定化しないように工夫している	・こどもの興味関心に沿った活動提供をする中で、豊富な経験や深い学びにつなげられている ・支援計画を元にスタッフ間で共有しながら、お子様の好きなものなども取り入れ、プログラム作成を行っています。	・本人支援における支援プログラムをガイドラインに定められている4つの基本活動に基づいたものにする事で、より計画的に幅広い経験や深い学びの場が提供できるようにしていきます。 ・日々のお子さまの状態にも寄り添いながら、目的や意図に応じてプログラム内容を検討・実施してまいります。 ・プログラムの幅が広がるように、療育内容の知識や幅を広げ、お子様一人一人の段階に合わせてプログラム作成を行います。
2	出来る限りご家庭の事情に寄り添いながら長期休暇等の調整を行っている。	保護者様も安定して日常生活が送れることでご利用者様も安心して過ごせるように配慮する。	引き続き一人ひとりに寄り添いながら支援していく。
3	療育環境の構造化を行なっている。	療育の効果を上げるため、パーテーションの使用や机や椅子、使用する物の配置などに配慮しています。また、写真やカードを使用することで、こどもの理解を促し、かつスムーズなコミュニケーションが行えるよう工夫しています。	より個々の特性に合った支援ができるよう、構造化の方法や効果を職員間で共有し検討していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われている	・訓練の実施について見える化が不十分である	・訓練でのこどもたちの様子や課題や対応策などの気づきをその都度保護者に見える化し、共有していきたい
2	その他(地域の保育所、こども園などのみを利用している児への訪問など)の訪問を行っていない	地域の保育所、こども園のみを利用している児童の訪問を行う際は、アセスメントや個別支援計画の立案、支援の実施などについてより専門的な知識・経験が訪問支援員に求められるが、スキルが不十分である	支援員としてより専門的な知識・経験を持つことで、より多くの支援を行えるように、様々な研修への積極的な参加をする機会を設けたり、外部評価を行うなど、サービスの質の向上に向けて実践していく必要がある